

◇ 研究概要報告 ◇

平成二十(二〇〇八)年度本研究所の研究計画は、指定研究二件(継続一、新規一)、常設研究三件(継続二、新規一)、特別指定研究三件(継続三)、共同研究四件(新規四)、そして個人研究三件(新規三)が設置され、合計十五件の研究プロジェクトが構成された。次に示すような具体的な計画のもと、総研究員数二〇六名の協力によって推進される。

研究成果として『佛教文化研究所紀要』第四十六集に共同研究他の報告論文九編、研究員報告四編の他、恒例の本研究所講演会の講演記録二編、日韓仏教文化学術交流記念講演記録一編を収めた。仏教文化研究叢書としては、『彦根藩井伊家文書浄土真宗異議相論』責任編集者 平田厚志氏、『日本仏教史における「仏」と「神」の間』(責任編集者 赤松徹真氏)、『真宗伝道の課題と展望』責任編集者 矢田了章氏及び『往生論註』出典の研究』(責任編集者 武田龍精氏)が出版された。永年の研究成果によるものである。

A 指定研究(龍谷大学図書館蔵の貴重書の研究・出版)

1、東洋史学 大谷文書中の漢語資料の研究

―『大谷文書集成』Ⅳにむけて―(三年次)

主任・都築 晶子 研究員七名

(研究の目的)

大谷文書中の漢語資料については、全六〇〇〇点のうちほぼ五〇〇〇点の整理を終え、写本などを同定し、録文と図版を作成して、『大谷文書集成』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(龍谷大学善本叢書五、十、二十三、法蔵館、一九八四、一九八九、二〇〇三年)を編纂し、順次に刊行してきた。しかしながら、なお大谷文書中の「胡漢両語文書」「流沙殘闕」「橋資料」と称されてきた漢語資料約一〇〇〇点が無整理・未公開のまま残されており、国内外の学界から一日も早い公開を要請されている。

本研究は、(1)この未整理・未公開の大谷文書中の漢語資料約一〇〇〇点について、写本などの同定作業を行い、録文と図版を作成して『大谷文書集成』Ⅰ～Ⅲに引き続き、『大谷文書集

成』Ⅳを編纂して刊行すること、(2)『大谷文書集成』Ⅰ～Ⅳの目録を作成することを目的とする。

ただし、研究年度二年目を迎えて、(1)これまで別置「極小断片」として称される大谷100001～10068号の中にはかなりまとまった漢語資料が含まれていることが新たに判明したため、「胡漢両語文書」「流沙殘闕」「橋資料」に加えて「極小断片」の中の漢語資料も対象とする。(2)さらに、目録についても本研究ではあくまでも『大谷文書集成』Ⅰ～Ⅳの簡易目録にとどめたい。今年度に入って漢語資料だけでなく胡語資料も含め、参考文献や旅順博物館蔵大谷探検隊将来トルファン文書との関係などを附記した「大谷文書全目録」(仮称)を特別指定研究「大谷探検隊将来資料の総合研究」班と協力して編纂することになり、これは改めて次の段階の研究として設定したい。

近年、コンピューターによる大蔵経などの索引が可能になり、国内外で大谷文書の同定作業が急速に進められている。ただし、同定は写真、図版、録文によるもので、玉石混濁の状況にあるのは否めない。大谷文書の一点一点を同定し、より正確な情報を公開していくのは、原本をもつ龍谷大学の責務であり、また今日の状況からみて緊急の課題であると考えられる。

本研究の最終年度となる二〇〇八年度は、二〇〇七年度に引き続き、以下の作業を進める。

- (1) 大谷文書の別置「極小断片」の中で重要な文書について写真撮影を実施する。
- (2) 大谷文書の「極小断片」(大谷100001～10068号)の漢語資料約三〇〇点のうち、二〇〇七年度中に調査した残りの部分について、パソコン検索などを利用して同定作業を行い、録文と図版を作成する。なお、旅順博物館蔵大谷文書についても参照して比較検討し、編集に反映させるものとする。

- (3) 『大谷文書集成』Ⅳの編纂を行い、原稿を作成して次年度の公刊をめざす。

- (4) 前年度に引き続き、『大谷文書集成』Ⅰ～Ⅳまでの目録を

編纂し、いわば索引として利用できるよう原稿を編纂して、次年度の公刊をめざす。

2、日本語日本文学 禿氏文庫本の研究（一年次）

主任・大取 一馬 研究員三二名
(研究の目的)

本学図書館所蔵の禿氏文庫本は貴重な図書を多く収蔵してありながら、その内容が多岐にわたっており、これまで総合的な調査が行われていないに至っている。本研究ではこの禿氏文庫本の全てを三年間で調査研究し、三年目には当文庫の中、学術的に資料価値の高い貴重書を善本叢書に入れて刊行し、四年目には文庫目録を付して『善本解題』を研究叢書として刊行する予定である。

(研究計画)

禿氏文庫が各分野にわたっているため、仏教・真宗・国史・文学の各分野の研究者が調査研究に当たることになっている。具体的には当文庫の写本・版本を中心に書誌カードを作成し、貴重本と思われる図書については、これをマイクロフィルムに撮り、紙焼にして、それで詳しく調査研究することになっている。また諸本の伝本研究が必要な場合には、当該書の所蔵機関に向いて比較研究を行い、当文庫本の位置付けを明らかにすることとしている。また、場合によっては、思想的な方面の知識も必要となるので、研究会を開き、講師を招いて講義をしていただくことも考えている。その他、一定の成果が得られた場合、当研究所のセミナーを通して公表することも考えている。

(研究計画)

また従来の日本では、人々の悩みについての解決方法として、各々の檀家寺の住職に相談するという伝統があった。しかし近年、社会が近代化され、その構造が複雑になるに従い、人々の悩みも多様化し、単なる人間性や経験だけでは対応しきれなくなってきた。このため、人々の悩みに対応するには、一定の知識と技術が要求され、今日、多種多様なカウンセリングという概念ができあがり発展した。

一方、寺院においては、都市化が進むにつれ、いわゆる檀家離れが顕著になってきた。このような中で、近年、お寺の社会活動の一端として、檀信徒の心の悩みの相談に対応する方法としてカウンセリングの必要性が認められるようになってきた。

そこで本研究では、仏教でいうスピリチュアルな課題を、心理学的観点から検討し、日本人のスピリチュアル性を明らかにするとともに、宗教的な悩みと心理的な悩みについて比較検討することにより、その教学的研究と心理学的研究の統合を試みるものである。

具体的には、研究代表者を中心として、各自の研究テーマに従って、定期的に研究会を開き、研究成果を発表するとともに、同じ研究テーマを持つ人々との交流会（研修会）を開く。

（二年目）

仏教とカウンセリングの教学的・心理学的研究

(1) 浄土三部経における、教学的内容とカウンセリング理念の比較検討

(2) 七祖聖教における、教学的内容とカウンセリング理念の比較検討

(3) 教信証における、教学的内容とカウンセリング理念の比較検討

(4) 上記以外の浄土真宗聖典（和讃・歎異抄・御文章その他）における、教学的内容とカウンセリング理念の比較検討

（二年目）

仏教とカウンセリングの実践的統合の試みの研究

(1) 前年度に対象とした各聖典における内容とカウンセリング

B 共同研究

1、教育学 仏教とカウンセリングの意義（一年次）

主任・友久 久雄 研究員二名
(研究の目的)

仏教とカウンセリング（臨床心理学）は、人の悩みを解決する方法という意味で、多くの接点があると考えられている。特に最近では、心理学の分野から仏教への関心が強まり、第4の心理学と言われる、トランス・パーソナル心理学が起るにつれ、東洋思想の中心である仏教に対して、心理学的観点からの考察が求められるようになってきた。

の傾聴のあり方との比較研究

(2) 以上の結果を踏まえ、現在それぞれの自坊でカウンセリシグを実践されている住職や坊守さんに対して、質問紙調査を実施し、我々の結果に対する整合性を検証するとともに問題点を明らかにする。

(3) 日本宗教学会に成果を発表するとともに、仏教文化研究叢書として刊行する。

2、仏教学 仏教と医療（一年次）

主任・長谷川 岳史 研究員四名

（研究の目的）

本研究は、インド・中国・日本において仏教が様々な階層に支持された要因の一つとして、「僧侶が有していた医学」と「僧侶の医療行為」を重点的に検討することを目的とする。

古来より仏教と医療の結びつきは深く、インドでは教義研鑽の補助学として規定された5つの学術（五明）の一つに「医方明（Chikitsāvidyā）」を取り入れられている。仏典の中にも「増一阿含経」や「金光明経」「除病品」などの三大患、三良薬説、『法華経』の良医喩、「根本説一切有部毘奈耶」「薬事」の記述など、教説の比喩として説かれる医術の他にも、当時、施されていた医術の様子や実際に使用されていた薬、主要な病名などが具体的に書かれているものも多く、僧侶が実際に医学を学び、それを実践していたことが予測できる。中国においても『隋書』経籍志に収録される「竜樹菩薩薬方」「婆羅門諸仙薬方」や、先述の三大患を収録する唐代の医書『千金方』（本学「写字台文庫」に存）のように、インドから仏教とともに伝わった医学情報が中国で定着しており、さらに唐代には僧侶が関わった悲田養病坊が設置されている。日本では、奈良から平安時代に寺院に救療施設が設置され、僧侶であり医者でもある僧医、またそれに準ずる看病僧の存在が確認でき、鎌倉時代には、尊卑や忍性とも関係が深く、中世最大の医学書『頓医抄』と『万安方』（本学「写字台文庫」に存、内容は『頓医抄』かもしれない）を著した僧医 浄観房性全（梶原性全）がいる。

本研究では、上記のように数多く存在する仏教と医学・医療

（研究計画）

の関係に触れた文献を調査し、インド・中国・日本において、僧侶が保持していた医学情報の質や医療行為の具体的な内容、またはその社会的影響を明らかにしたい。

（二〇〇八年度）

インド・中国・日本における仏教と医学・医療の関係に触れた文献を調査。具体的な用例の抽出。研究談話会の開催。概要を論文発表。

（二〇〇九年度）

前年度に抽出した具体的な用例の中から特筆すべきものを重点的に検討。研究談話会の開催。論文発表。

3、真宗学 近世仏教における教学論争と書籍の刊行

主任・殿内 恒 研究員五名

（研究の目的）

江戸幕府は宗教統制政策の一環として、仏教諸宗派の学問を奨励したが、実際の宗学研鑽は、研究教授機関の整備、修学体系の制度化、さらには印刷技術や出版事業によって可能となった。本研究は、近世における仏教研究と出版事業との関わり的一端を、浄土真宗本願寺派の教学論争である三業惑乱を手がかりに窺うものである。

三業惑乱は、本願寺派第六代能化功存（一七二〇—一七九六）が著した『願生婦命弁』（一七六四刊）に対する批判から始まったと言える。やがて天明年間になると、大麟（生没年不詳）や宝蔵（生没年不詳）によって批判書が出され、以後十数年にわたり、主として批判論駁書の刊行を通して論争が繰り広げられていった。

しかしながら、従来の研究では『願生婦命弁』と、その論駁書である大瀛（一七五九—一八〇四）の『横超直道金剛鉢』（一八〇一刊）のみに研究が集中し、『横超直道金剛鉢』が出版されるまでの論争書のほとんどは、和綴本のまま翻刻されていない状況である。

そこで、本研究では、『横超直道金剛鉢』が出版されるまでの論争書から代表的なものを翻刻し、併せて注釈的研究を行い、

それらを公開していくことを目的とする。つまり、三業惑乱に
関連する第一次資料群を広く公開し、研究の一助とすることが
本研究プロジェクトの第一次目標であり、従来の研究で等閑に
されがちであった、論争に関する書籍群の内容研究を行うこと
が第二次目標である。

(研究計画)

以下の計画に従って、研究を進めていく予定である。

- (1) 『願生帰命弁』の翻刻ならびに注釈的研究
- (2) 『願生帰命弁』への第一次批判書の翻刻ならびに注釈的研究
- (3) 第一次批判書に対する学林側の論駁書の翻刻ならびに注釈的研究
- (4) 第二次批判書群の翻刻ならびに注釈的研究
- (5) 第二次批判書群に対する学林側の論駁書の翻刻ならびに注釈的研究
- (6) 以上をふまえた内容研究

初年度は特に、(1)・(2)の研究を行う。

4. 法学 アフリカの新宗教とスピリチュアリティに関する

複合科学的な研究(一年次)

主任・落合 雄彦 研究員五名

(研究の目的)

アフリカは新宗教運動の活動が世界的にみても最も活発な地域のひとつである。そして、そうしたアフリカにおける新宗教運動の代表例とされてきたのが、19世紀末から20世紀前半にかけて欧米ミッシェン系キリスト教会から分離独立して形成された「アフリカ独立教会」にほかならない。独立教会は、アフリカ人による、アフリカ人のための、アフリカ化されたキリスト教系新宗教の潮流であり、ナイジェリア南部で「アラドゥラ教会」、南部アフリカで「ザイオニストあるいはアポストリック教会」、ガーナ南部やケニア西部などで「スピリチュアルあるいはスピリチュアリスト教会」などと呼ばれている。その最大の特徴は、聖霊の憑依、熱狂的な祈り、異言(聖霊に満たされて意味不明な言葉や不知の外国語を話すこと)、悪霊祓い、信仰治療などである。また、アフリカにはこうした独立教会以外

にも、ケニアの「ムンギキ」のような伝統宗教から派生したといわれる暴力的な新宗教集団やイスラームとキリスト教を混交させたグループなど数多くの新宗教運動が存在する。さらに、そうした内発的な新宗教に加えて外来の新宗教もまた活発な布教活動を展開しており、そうしたアフリカで活動する外来新宗教のなかには「創価学会」「崇教真光」「天理教」といった日系新宗教も含まれる。

他方、アメリカで「ニューエイジ」、日本で「精神世界」などと呼ばれる、宗教そのものではないものの超越的な存在との霊的な関係性を重視する精神活動のあり方を一般にスピリチュアリティと呼ぶが、アフリカではこのスピリチュアリティの動態もまた広範に観察される。たとえば、島蘭進(東京大学)は、スピリチュアリティのことを「新霊性運動」と名付けた上で、「新霊性運動は世界の先進国において、また第三世界も含めて消費文化が発達した大都市において同時多発的に、多様な形態で展開している運動群である」と述べ、そうした新霊性運動のアフリカにおける代表例としてナイジェリアの「霊性科学運動」を指摘している(『精神世界のゆくえ』東京堂出版、一九九六年、五〇―五二頁)。

本研究の目的は、これまでわが国においてはほとんど本格的な研究対象とされてこなかったアフリカの新宗教運動とスピリチュアリティの動態を、1年間にわたる国内での文献研究および共同研究会活動とアフリカでの個別フィールドワーク調査によって解明することにある。本研究で取り上げる運動の詳細は未定であるが、その主な考察対象のなかには、アフリカの内発的な新宗教としてはナイジェリアの「天上のキリスト教会」、タンザニアのペンテコステ派諸教団、南アフリカの「ザイオニストキリスト教会」、外来新宗教としては「エホバの証人」「創価学会」「崇教真光」、スピリチュアリティ運動としてはナイジェリアの「霊性科学運動」などが含まれることになろう。

(研究計画)

二〇〇八年度(一年目)

本研究プロジェクトの研究方法は、①国内における文献研究

C 常設研究

1、真宗学 浄土教における救済思想の展開（三年次）

主任・大田 利生 研究員一八名

（研究の目的）

現代は、「世俗化の時代」「無宗教の時代」と呼ばれるが、一方では、多くの者が様々な宗教にひかれていられることも事実である。このような、一見矛盾するかのように見える現代日本人の宗教観は「宗教の風景化」と評される通りである。

このような現代的情况の中、親鸞の思想・浄土真宗の教学、そして真宗者がどのような働きをなしているのか、またどのような働きをなすべきなのかが問われているという事ができる。

親鸞の思想・浄土真宗の教学の根幹に「救済」思想があるということが出来るが、本研究に於いては、現代人、或いは現代社会の諸問題に対して、親鸞教義・真宗教学が「救済」という面でのように関わるべきであるかを考究する事が、本研究の主目的である。

具体的には、第一部門として、浄土教成立から親鸞浄土教に

および共同研究会活動、②アフリカにおける個別的なフィールドワーク調査、の二種類に大別される。国内における共同研究会としては、四月頃に第一回研究会（顔合わせ、研究方針および分担の確認）、六月頃に第二回研究会（外部から招いたリンスパーソンに対するヒヤリング①）、十月頃に第三回研究会（外部から招いたリンスパーソンに対するヒヤリング②）、十二月頃に第四回研究会（叢書原稿執筆に向けた研究メンバー各自の研究成果発表）を行う。他方、海外での活動としては、研究メンバーのうち数名が八月九月にアフリカでの現地調査を実施する（なお、海外調査は本研究プロジェクトと不可分の重要なかつ中心的な活動であるが、そのための経費については、出張者それぞれの科研費や個人研究費から支出するため、今回の共同研究申請書のなかには予算計上していない）。

（二〇〇九年度）（共同研究終了後）

叢書刊行のための原稿執筆・編集作業を行う。

（研究計画）

至るまでの浄土教において、弥陀救済思想がどのように形成され、展開してきたかを研究する。第二部門として、親鸞浄土教において救済思想がどのように開顕され、また親鸞以降の真宗教学の展開の中で、救済思想がどのように説示されてきたかを明らかにする。第一・第二両分野を総合・統括することにより、「浄土教における救済思想」の意義を研究する。

研究員が第一部門（浄土教成立から親鸞浄土教に至るまでの浄土教）、第二部門（親鸞浄土教、及び親鸞以降の真宗教学の展開）のいずれかに所属し、各部門ごとに研究グループを立ち上げ、研究会を定期的に開催する。

初年度（二〇〇六年度）は、これまでの研究成果・資料を網羅的に収集し、先行研究を批判的に考察する。具体的には、研究員個々の専門領域（時代・分野）における、これまでの成果と今後の課題を明確にする。

次年度（二〇〇七年度）は、引き続き研究成果・資料の収集を継続しつつ、前年度までの成果を基礎として、過年度までの真宗学科常設研究「真宗伝道学の研究」「教理史における実践学の研究」の成果を援用し、各部門の研究グループに於いて発表をおこなうことを通して、研究員相互が問題意識を共有し、現代社会のかかえる諸問題を包みながら、浄土教における救済思想の意義を研究する。

最終年度（二〇〇八年度）には、前年度までの成果を元に、研究員がそれぞれの担当領域・分野における研究論文を執筆する。

2、仏教学 龍谷大学図書館蔵仏教古典文献の研究（三年次）

主任・桂 紹隆 研究員一五名

（研究の目的）

龍谷大学の歴史は寛永十六年（一六三九年）、僧侶養成機関の学寮創建にはじまり、大正十一年（一九二二年）、旧制大学令により仏教大学から龍谷大学となり、公教育機関へと質的に変化発展を遂げて今日に至っている。この本学の歴史は、同時に本学図書館の歴史でもあり、また、真宗学（宗乘）・仏教学（余乘）の教育・研究に関わる蔵書蓄積の歴史でもある。

江戸時代の学寮・学林時代の初期の記録に、

一六四九年 図書十部が寄贈される（「龍谷購主伝」）

一六五一年 学費で『俱舍論釈頌疏義鈔』を購入。（同書末尾墨書）

という記述があり、これらの記事は、学寮創建から十年余を経た頃、既に仏教書の収集が行われていたことを示している。

しかしながら、江戸時代以降、本学に蓄積されてきた仏教書は、現在、多くが容易に閲覧できないことから、その学術的価値・評価が忘れ去られてしまう危機に瀕している。

そこで本研究では、本学図書館に所蔵される仏教古文獻の内、特に未整理分の整理・分類を行い、現代において再評価されるべきと思われるものについては重点的に研究を進め、現代の仏教研究に寄与しうる文獻の発掘・再評価を目的とした。

第三年次

（研究計画）

研究班の運営・総括。出版準備。研究談話会の開催。整理・分類・研究状況報告。

3、仏教史学 日本仏教史における神仏習合の研究（一年次）

主任・赤松 徹真 研究員九名

（研究の目的）

仏教は、覚醒・目覚めの宗教といわれ、人間の迷妄・自己中心性を転回して、普遍的な人間のあり方を主体的に獲得することを促すものである。日本における仏教の受容と展開においても、在来の神々や神道の宗教基盤、そのもとでの歴史社会との間で、個人的にも集団的にも、また思想的政治的社会的造形的にも、時代性を背景にさまざまな確執・融合・対立などの関係性を形成してきた。日本における仏教史を研究するに際して、これら「神仏習合」研究は、重要な課題である。

初年度は、先の研究課題に関わる各時代ごとの神仏習合及び造形分野の関係史料の調査・収集と従来の研究史の整理に取り組み、それらの分析・検討を行い、一部の研究成果を報告する。

第二年度は、引き続き、各時代ごとの神仏習合及び造形分野の関係史料の調査・収集・整理に取り組み、それらの分析・検討を行い、研究成果を報告する。

（研究計画）

第三年度は、各時代ごとの神仏習合及び造形分野のまとめを行い、研究成果のとりまとめを行う。

研究計画としては、従来の神仏習合に関わる研究史の整理とともに各時代ごとの神仏習合及び造形分野の調査・収集・整理に取り組み、それらの分析・検討を行い、研究分担者間の研究進展を共有し、研究成果の報告を積み上げる。

研究方法としては、各時代ごとの神仏習合及び造形分野のありように関して関係史料の調査・収集・整理に取り組み、仏教の宗教的立場を方法として分析・検討を行う。

初年度は、従来の研究史の整理と関係史料の調査・収集・整理を行う。外部講師を招き、公開シンポジウムを企画する。第二年度は、引き続き各時代ごとの関係史料の調査・収集・整理を行う。研究成果の報告を積み上げる。

第三年度は、関係史料の整理によって、刊行に向けて取り組み、また研究報告を成果として刊行しようようにまとめを行う。公開シンポジウムを企画する。

D 特別指定研究

1、大谷探検隊将来資料の総合的研究

主任・入澤 崇 研究員五〇名

（研究の目的）

本研究は大谷探検隊が中央アジアで収集した資料（以下、大谷資料）の全文を明らかにすることを目的とする。探検隊が収集した資料は文字資料と美術考古資料に大別でき、本研究は現在主に文字資料に主眼をおいている。敦煌の石室から発見された「敦煌資料」、及びトルファン・クチャといったタクラマカン沙漠周辺のオアシス都市の遺跡から出土した「東トルキスタン出土資料」が主たる研究対象である。文字・言語・内容は多岐にわたり、断片であるために解説・同定作業はかなりの人員・時間を要する。

龍谷大学所蔵の大谷資料については研究がかなり蓄積されてきた〔研究成果参照〕。当面の目的は従来の人文学的手法に加えて、科学分析調査を行ない、資料保存のためにデジタルデー

タ化する作業を行なうことである。大谷資料は現在、日本・中国・韓国に分散されており、研究困難な状況が長らく続いていたが、大谷探検隊及び西域に関心が高まるにつれて各研究機関の門戸が徐々に開かれてきた。中国旅順博物館所蔵の大谷資料については、二〇〇二年より旅順博物館との共同研究が開始され、二六、〇〇〇点にも及ぶ漢文仏典断片の同定作業が日中双方で遂行された。今後も研究の深化を計りながら、当該資料と姉妹関係にあるドイツ所蔵の漢文・非漢文資料も継続して探査していく。さらには中国国家図書館に所蔵されている敦煌出土の大谷資料も調査対象とせねばならない。

西域はシルクロードの名称に象徴されるように、従来インドと中国の通路としての価値を付されてきたが、本研究の進展により西域には独自の仏教文化が存在したことが明らかになりつつある。文字資料に加えて、今後は旅順博物館・韓国国立中央博物館・東京国立博物館に所蔵されている美術考古資料にも目を向け、最終的には大谷資料を全点カタログ化し、デジタル入力して世界に向けて発信したいと考えている。

(研究計画)

1. 龍谷大学所蔵大谷探検隊資料の内容解説
 2. 龍谷大学所蔵大谷探検隊資料の科学的調査及びデジタルデータ化
 3. 旅順博物館所蔵の大谷探検隊資料の内容解説と研究者交流
 4. ドイツ探検隊収集仏典断片の内容解説
 5. 北京図書館所蔵大谷探検隊資料の調査と研究者交流
 6. 龍谷大学所蔵大谷探検隊資料(探検日記、写真フィルム等)の整備、研究
 7. 大連図書館所蔵大谷光瑞関連資料の研究
 8. 仏教初伝南方ルート調査研究
 9. 西域仏教遺跡の調査研究(ベゼクリク石窟・タジキスタンの仏教遺跡・アフガニスタン仏教遺跡)
- ## 2、大正新脩大藏經の増補・改訂に関する研究

主任・淺田 正博 研究員五名
(研究の目的) 本研究会は「大正新脩大藏經の増補・改訂を目的としている。」

(研究計画)

大正新脩大藏經に未収録の貴重書籍や江戸時代に著されて各宗教の研鑽に有用な注釈書類などを翻刻発刊し、仏教界の振興に寄与することを目指す。

本研究会は龍谷・大谷・高野山・駒澤・大正・立正の仏教系六大学による共同研究を昭和三十三年より続けてきたが、昨年度よりその連携を解消した。それは各大学図書館に所蔵されている仏教関係図書の調査を別個に始めるため、本学としても仏教学研究室と協力しながら独自に長期的な研究を進めつつある。昨年度はまず本学所蔵の貴重書籍の調査から始めており、しばらくはその継続上に運んでいきたいと考えている。

3、仏教經典の翻訳と研究

(研究の目的)

主任・武田 龍精 研究員四二名

(1) 研究目的/最終的な到達目標

仏典翻訳研究会の主要なる研究目的は、浄土三部經をはじめ漢訳仏典及び親鸞聖人さらに覚如・蓮如上人の著作を中心とした浄土真宗関係の文献を外国語(英語・ドイツ語訳・フランス語訳など)に翻訳・出版することである。さらには、重要と考えられる関連經典あるいは論釈の基礎文獻に関しても出来る限り翻訳することを企画し、龍谷大学から世界へ向けて発信する貴重な情報の一翼を担うことも目的とする。また、「仏典翻訳部」という名称をもって、およそ五〇数年前に増山元学長によって創設された意趣のひとつとして謳われていた浄土真宗の海外伝道のために、教義学的翻訳と同時に平易なる伝道書関係の翻訳も重要な目的のひとつである。また、本年度より仏教文化研究所付属研究センターが設置することが可能となったので、「仏典翻訳研究センター」とならんで、浄土真宗の国際伝道を学術的に研究するセンターとして「真宗国際伝道研究センター」(仮)を付設する計画である。

(2) 研究期間内の発表目標

『無量壽經』に関しては、二〇〇七年度発表(英訳『大無量壽經四十八願文』)につづいて継続されるものであり、現在、共同研究者により細部の調査・原稿作成・英訳に取り掛かって

おり、さらに続編として一部を発表する予定である。『往生論註』の英訳については、二〇〇七年度では上巻の英訳を発表したので、本年度ではひきつづいて下巻の発表を目標としている。『観経疏』『玄義分』の英訳に関しては、偈頌部分の発表を目指したが、二〇〇七年度では現代語の翻訳作業に予想以上の時間を費やし、その成果の一部しか発表できなかった。本年度には英訳『帰三宝偈』を発表する予定である。『八宗綱要』については、二〇〇七年度では第一章「俱舍宗」すべてが仏典翻訳研究会の審議にかけられ緻密に検討された。英訳「俱舍宗」が発表された。本年度はその annotation 作成のための研究に担当班は専念する。覚如撰述『口伝鈔』の英訳原稿が昨年度仏典翻訳研究会に討議される予定であったが、「八宗綱要」「俱舍宗」の審議により果たせなかった。本年度は必ず出版する予定である。二〇〇七年度は Rev. Mas Kakuryu Kodani の DHARMA TALK SERIES vol.1, Dharna Chatterjee の説法集を出版する予定である。David Matsumoto (IBS教授) の説法集を出版する予定である。

(研究計画)

1. 『阿弥陀経』(二種の漢訳)の英訳鳩摩羅什訳と玄奘訳を共に英訳原稿を諮問委員会に諮り、審議結果を反映した原稿ファイルも作成済みであり、現在最終的に annotation 等の精査と作成。
2. 『無量寿経』の英訳康僧鎧訳と言われている漢訳本の英訳原稿はすでに諮問委員会に掛けられ討議済み。現在、担当者により細部の調査・原稿作成・英訳に取り掛かっている。
3. 『往生論註』の英訳上下二巻の英訳原稿は既に諮問委員会にも討議完了しており、現在用語説明等の脚注作成に取り掛かる。
4. 『八宗綱要』の英訳昨年度より本格的に開始された企画であり、現在諮問委員会で審議中である。本文献も難解なテキストであり、相当の時間を要する。
5. 『観経疏』『玄義分』の英訳二〇〇六年度より中国浄土教研究会を立ち上げ、大学院ゼミ生を中心に英訳原稿作成のための研究を進めている。

E 個人研究

1、仏教と推意について関係性理論からの分析

東森 勲

(研究の目的)

従来の仏教や宗教の中では、禅問答のように、理解の過程における推論、推意が問題となる現象がある。この問題を認知語用論から解明するのが目的である。

- (1) 禅問答などと通常のコミュニケーションとの推意の違いとはなにか？
- (2) 推意計算において聞き手は仏教的知識 (implied assumption) を想定としてどのようにとらえるか？
- (3) 処理努力とその認知効果は禅問答とか親鸞のおしえではどのようになっているのか？

(研究計画)

仏教と推意関係の書物(禅問答の本など)と関係性理論と推意関係の書物を購入し、関連した、最新の英米及び、日本の論文を読んで、国内の学会出張(情報処理学会など)により、最新の研究動向をふまえて、論文を作成する

2、寺社における「対話」とカウンセリングに関する仮説生成研究

吉川 悟

(研究の目的)

本研究の目的は、寺社のコンテクストに関与している人の中での「対話」に様々な存在しているカウンセリング等の「心理的援助」の側面の存在を明確にし、そのより効果的な実践に至るプロセスの仮説生成を行うことである。

現在では、心理的逸脱などのため、「心理相談」としてカウンセリングを受けること、すなわち臨床心理学的援助に注目さ

れているが、仏教文化の側面から見れば、これらの心理的援助や日常的な悩み相談を含めた社会的ガイドラインの提供は、寺社に関わるコンテキストから波及していることは間違いない。しかし、近親者の死去に伴う喪の儀式などでは、「必然的な抑うつ感があること」は、臨床心理学視点でなくとも社会的知識として知られながらも、十分に活用されているとは言えない。その援助には、日常的に檀家等との相談活動を行っている僧侶が適切な指針を示せることの可能性は大きく、結果的に「カウンセリング」や「心理相談」という特別に改まった形式の相談によらない「臨床心理学的效果」を生むことの可能性がある。「対話」が構成できると考える。

本研究においては、まず寺社をとりまく環境的側面のコンテキストを再考し、現状において一般的な僧侶がどのような治療的・援助的相互作用を生み出すに至っているかについて、探索的調査研究を行う。これらの探索的調査研究から、寺社においてなされる対話的側面を多様に捉え、檀家や訪問者との間でなされているカウンセリングの効果のある相互作用について検討し、「心理的援助」のより効果的な実践に至るプロセスの仮説生成を行う。

本研究は、寺社での初期段階での「臨床心理学的な援助」の可能性についてのグラウンデッドセオリーを成立させるための初期研究を意図したものである。そのため、まずフィールドワークを実施することで、寺社に対する実態調査を行う。その調査結果から、寺社のコンテキストにおける臨床的有用性を示していると考えられる「対話」形式での相互作用を多様に取り上げ、探索的にその中から効果因子を選択し、寺社コンテキストにおいて起こっている出来事の中で有効性を生み出していると思われるいくつかの相互作用を中心に仮説生成の可能な側面に関する面接調査を行う。

具体的には、

- (1) 寺社に対するフィールドワーク・数件の寺社に赴き、寺社内どのような「臨床心理学的援助」の要素が存在する

- (2) 調査結果から探索的に効果因子抽出し、様々な対話の中から「臨床的有用性のある要素」として重要なものを選択し、以下の(3)で扱う焦点を絞る。
- (3) 決定した要素・相互作用の場面を選択し、質問紙調査と面接調査を行う。(広島、小浜二件の計三件の寺社にて予定)
- (4) 調査結果の分析上記の調査結果を分析し、仮説生成を行う。

3. SHIN BUDDHISM HISTORY

ゲイレン・アムスタッツ

◇平成二十年年度 兼任・客員研究員〈新規〉◇(順不同)

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|
| 大取班 | 大取 一馬 (本学文学部教授) | 下西 忠 (高野山大学教授) |
| 日下 幸男 (本学文学部教授) | 三浦 俊介 (立命館大学非常勤講師) | 小山 順子 (天理大学准教授) |
| 楠 淳澄 (本学文学部教授) | 高畠 望 (元関西大倉高校教諭) | 齋藤 勝 (元本学非常勤講師) |
| 玉木 興慈 (本学短期大学部准教授) | 寺尾 卓之 (丹波桜梅学園指導員) | 近藤 香 (本所客員研究員) |
| 岡村 喜史 (本学文学部准教授) | 日比野浩信 (愛知大学短大非常勤講師) | 西山 美香 (花園大学非常勤講師) |
| 和田 恭幸 (本学文学部准教授) | 内田 誠一 (安田女子大学准教授) | 酒主 真希 (冷泉院副住職) |
| 鈴木 徳男 (相愛大学教授) | 酒主 真希 (冷泉院副住職) | 三ツ石友昭 (箕面学園高校教諭) |
| 安井 重雄 (兵庫大学准教授) | 原田 信之 (新見公立短期大学准教授) | 中村 元 (元浄土真宗教学研究員) |
| 万波 寿子 (本学非常勤講師) | 田村 正彦 (元いわき秀英高校教諭) | |
| 浜畑 圭吾 (本学非常勤講師) | | |
| 小林 強 (武庫川女子大学非常勤講師) | | |
| 關根 真隆 (元本学兼任講師) | | |
| 新倉 和文 (本所客員研究員) | | |
| 後島 康夫 (本学非常勤講師) | | |
| 岩井 宏子 (元神戸薬大非常勤講師) | 友久班 | |
| 加美 宏 (同志社大学名誉教授) | 友久 久雄 (本学文学部教授) | |
| 三輪 正胤 (大阪府立大学名誉教授) | 林 智康 (本学文学部教授) | |

海谷 則之 (本学文学部教授)
 吉川 悟 (本学文学部教授)
 滋野井一博 (本学文学部准教授)
 原田 哲了 (本学文学部講師)
 吾勝 常行 (本学非常勤講師)
 高木 宣秀 (本学文学部研究科研究生)
 打本 未来 (本学文学部研究科研究生)
 李 光濬 (車内心理学研究所所長)
 高山 秀嗣 (二松学舎大学非常勤講師)
 長谷川班
 長谷川岳史 (本学文学部准教授)
 龍口 明生 (本学文学部教授)
 長崎 陽子 (本学非常勤講師)
 岡本 健資 (本学非常勤講師)
 殿内班
 殿内 恒 (本学社会学部准教授)
 井上 善幸 (本学文学部准教授)
 堀 祐彰 (本学非常勤講師)
 那須 良彦 (教学伝道研究センター研究員)
 藤田 真証 (教学伝道研究センター研究員)
 落合班
 落合 雄彦 (本学法学部教授)
 鍋島 直樹 (本学法学部教授)
 近藤 秀俊 (関西外国語大学特任准教授)
 小泉 真理 (清泉女学院大学准教授)
 石井 美保 (一橋大学講師)
 大田班
 原田 哲了 (本学文学部講師)
 桂班
 後藤 康夫 (本学非常勤講師)
 藤田 祥道 (元本学非常勤講師)
 毛利 俊英 (筑紫女学園大学非常勤講師)

那須 円照 (本学文学部研究科博士課程修了)
 神子 上恵生 (本学名誉教授)
 五島 清隆 (佛教大学・同志社大学非常勤講師)
 岩本 明美 (関西大学非常勤講師)
 赤松班
 赤松 徹真 (本学文学部教授)
 中川 修 (本学文学部教授)
 藤原 正信 (本学文学部准教授)
 藤村 研之 (本学文学部准教授)
 下間 一頼 (本学非常勤講師)
 山下 立 (安土博物館学芸員)
 大河内智之 (和歌山県立博物館学芸員)
 中野 聡 (兵庫大学非常勤講師)
 濱口 芳郎 (本学非常勤講師)
 入澤班
 都築 晶子 (本学文学部教授)
 若原 雄昭 (本学理工学部教授)
 村岡 倫 (本学文学部教授)
 イムレ・ガランボス (大英図書館)
 岩井 俊平 (本学非常勤)
 武田班
 藤 能成 (九州龍谷短期大学教授)
 ジェフエリー・ウィルソン (元ノースカロライナ大学講師)
 ジャック・ファッサン (東京大学大学院リチャード・ジャフィー (デューク大学) 教授)
 ヘンリー・アダマス (中央仏教学院) 個人研究
 東森 勲 (本学文学部教授)
 吉川 悟 (本学文学部教授)
 土屋 和三 (本学文学部教授)

ゲイレン・アムスタッツ (本学客員教授)
 二〇〇八年度龍谷大学沼田奨学金研究奨学金受給者及び外国人客員研究員
 氏 名 クラウス・グラスホフ氏 (ドイツ ハンブルク大学名誉教授)
 研究課題 仏教論理学の形式化・記号化の諸問題
 指導教授 桂紹隆文学部教授
 研究期間 二〇〇八年四月一日〜二〇〇八年七月三十一日
 氏 名 金才権氏 (韓国)
 研究課題 『中辺分別論』における三性の構造およびその思想的意義
 指導教授 若原雄昭理工学部教授
 研究期間 二〇〇八年四月一日〜二〇〇八年九月三十日
 氏 名 ゲイレン・アムスタッツ氏 (アメリカ 本学客員教授)
 研究課題 Shin Buddhist History
 指導教授 赤松徹真文学部教授
 研究期間 二〇〇八年四月一日〜二〇〇九年三月三十一日
 氏 名 黄釋勳氏 (台湾 法鼓佛教研究学院助教)
 研究課題 The Study of the Zuing Shivan (祖庭事苑の研究)
 指導教授 桂紹隆文学部教授
 研究期間 二〇〇八年九月一日〜二〇〇九年六月三十日
 氏 名 アヌ・チン・マルマ氏 (パン

グラデシユ ダツカ大学研究員)
 研究課題 日本における大乘仏教の存在形態―ケース・スタディー―
 指導教授 若原雄昭理工学部教授
 研究期間 二〇〇八年九月一日〜二〇〇九年八月三十日
 氏 名 肖平氏 (中国 中山大学論理学及び認知理論研究所教授)
 研究課題 日本における因明学の展開と発展―研学と堅義を中心に―
 指導教授 桂紹隆文学部教授
 研究期間 二〇〇八年九月一日〜二〇〇九年二月二十八日

◇研究所日誌◇

―平成十九年度(後期)―
 十二月十二日(水) 午後一時三十分〜午後四時三十分
 第七回研究談話会(レップ研究室) 会場 大宮学舎西費二階大会議室
 講題 「伝道・説法におけるコミュニケーションの要素」
 講師 深川宣暢氏(本学文学部教授)
 講題 「宗教教育と対話の原理」
 講師 海谷則之氏(本学文学部教授)
 講題 「カウンセリングと真宗」
 講師 友久久雄氏(本学文学部教授)
 十二月十七日(月) 午後六時三十分〜
 第八回研究談話会(赤松研究班) 会場 大宮学舎本館一階応接室
 講題 神仏習合の価値化とその歴史

講師 中川修氏（本学文学部教授）
十二月十八日（火） 午後一時十五分～
午後二時四十五分
第七十回仏教文化講演会

会場 大宮学舎清和館三階ホール
講題 大衆教化の思想の底に流れる
もの―元暁、親鸞、蓮如、そ
してパウロ―

講師 藤能成氏（九州龍谷短期大学
教授）

一月九日（水） 午後十二時三十分～
午後一時三十分
第九回運営会議開催

1. 二〇〇八年度専任研究員の任用に
ついて
該当者なし。

2. 二〇〇八年度運営体制について
従来どおり選出することとなった。

3. 二〇〇八年度沼田奨学金研究奨学
金受給者の推薦審査及び外国人客員
研究員の任用について
アヌ チン・マルマ氏（バンングラデ
シュ）、肖平氏（中国）、崔洵洵氏
（韓国）が推薦、任用された。

4. 二〇〇七年度客員研究員の学外助
成申請について
提案どおり承認された。

5. 仏教文化研究所研究図書費予算に
ついて
今後検討していくこととなった。

6. 研究叢書の配布方法について
文学部・短期大学部以外の教員へ

は、編著者からの献本リストに基づ
いて配布することとなった。
一月十七日（木） 午後三時～
第九回研究談話会（桂研究班）

会場 大宮学舎本館一階応接室
講題 龍谷大学図書館所蔵『彌陀報
應』について

講師 道元徹心氏（本学文学部准教
授）

講題 旅順博物館所蔵仏典写本の概
要
講師 三谷真澄氏（本学国際文化学
部准教授）

講題 『探玄記肝要抄』について
講師 藤丸要氏（本学経済学部准教
授）

二月二十日（水） 午前十一時～午後十
二時
第十回運営会議開催

1. 二〇〇八年度運営体制・運営会議
構成員について
龍口明生文学部教授が次期所長に選
出された。運営会議構成員は、前掲
のとおり選出された。

2. 二〇〇八年度兼任研究員・客員研
究員について
提案どおり承認された。

3. 二〇〇七年度研究プロジェクト研
究年次経過報告書の評価方法につ
いて
審査要項と審査票について一部修正
のうえ承認された。

4. 学術リポジトリについて
今後検討していくこととなった。
二月二十一日（木） 午後五時三十分～
第十回研究談話会（林研究班）

会場 大宮学舎西餐三階小会議室
講題 江戸時代における「悪人正機」
理解
―特に円智、寿国における
『歎異抄』第三章の解釈を中
心に―

講師 松尾得見氏（本学非常勤講師）
三月十四日（金） 午後三時～
第十一回研究談話会（赤松研究班）

会場 大宮学舎本館一階応接室
講題 紀伊国・日光社参詣曼荼羅の
基礎的考察
講師 大河内智之氏（和歌山県立博
物館学芸員）

講題 油日神社懸仏群からうかがう
太子信仰と軍神信仰
講師 山下立氏（滋賀県立安土城考
古博物館学芸員）

―平成二十年（前期）―
四月二十三日（水） 午後十二時三十分
～午後一時三十分
第一回運営会議開催

1. 二〇〇八年度研究体制・役員につ
いて
前掲のとおり承認された。

2. 二〇〇八年度兼任・客員研究員の
追加・取消について

提案どおり承認された。
3. 二〇〇八年度研究所予算について
提案どおり承認された。

4. 二〇〇八年度研究談話会開催につ
いて
提案どおり承認された。

5. 二〇〇八年度仏教文化講演会につ
いて
今年度も二回開催することが承認さ
れた。

6. 二〇〇八年度仏教文化セミナー
（新設）について
提案どおり承認された。

7. 二〇〇七年度研究プロジェクト研
究年次経過報告書について
今回が初めての審査となるため、審
査日程・方法等について審議がなさ
れ承認された。

8. 二〇〇八年度沼田奨学金研究奨学
金受給者の推薦審査及び外国人客員
研究員の任用について
金才権氏（韓国）が推薦、任用され
た。

9. 研究プロジェクト情報のホームペ
ージへの掲載について
提案どおり承認された。

五月二十八日（水） 午後十二時五十分
～午後一時三十分
第二回運営会議開催

1. 研究プロジェクト研究年次経過報
告書審査について
提案どおり承認された。特別指定研

究及び研究種別のあり方については今後の検討課題となった。

2. 二〇〇八年度沼田奨学金研究奨学金受給者および外国人客員研究員任用予定者の取り消しについて
崔桐洵氏（韓国）の辞退が承認された。

3. 二〇〇八年度沼田奨学金研究奨学金受給者の推薦（延長）および外国人客員研究員の任用（延長）について
エリザベッタ・ポルク氏（イタリア）の延長推薦が承認された。

4. 二〇〇八年度仏教文化講演会について
真宗学および仏教学関連の講演会を開催することが承認された。

六月九日（月） 午後一時十五分～午後二時四十五分
第一回仏教文化セミナー
会場 大宮学舎清和館三階ホール
講題 ユダヤ教と仏教―ハシディズムの物語と禪の公案―
講師 ヨアブ・エルステイン氏（バライラン大学教授）

通訳 小久保乾門氏（大阪大学講師）
解説 手島敷矢氏（同志社大学教授）
コメンテータ 高田信良氏（本学文学部教授）

六月十四日（土） 午後三時三十分～午後五時三十分
第一回研究談話会（落合研究室）

会場 深草学舎第一共同研究室
講題 アフリカの新宗教運動を考える

講師 落合雄彦氏（本学法学部教授）
七月十六日（水） 午後十二時三十分～午後一時四十五分
第三回運営会議開催

1. 二〇〇九年度研究プロジェクト募集について
提案どおり承認された。

2. 二〇〇九年度沼田奨学金研究奨学金受給者の推薦審査及び外国人客員研究員の任用について
デイリブ・クマル・バルア氏（バンガラデシユ）、エルダール・キユチュキユアルチユン氏（トルコ）が推薦、任用された。

3. 特別指定研究のあり方について
研究代表者の意見聴取を行い、検討していくこととなった。

4. 二〇〇八年度客員研究員の追加について
提案どおり承認された。

5. 創立三七〇周年記念事業に係る学術研究企画について
応募を見送ることとなった。

七月二十九日（火） 午後六時～
第二回研究談話会（赤松研究室）
会場 大宮学舎西餐三階小会議室
講題 法華寺阿弥陀浄土院の造営とその本尊について
講師 中野聰氏（本学客員研究員）

九月二十九日（月） 午後六時～
第三回研究談話会（赤松研究室）
会場 大宮学舎本館一階応接室

講題 近世本願寺教団における『報恩行』の展開
講師 藤村研之氏（本学文学部准教授）

十月一日（水） 午後十二時三十分～午後一時三十分
第四回運営会議開催

1. 第七十一回、第七十二回仏教文化講演会について
後掲のとおり開催が承認された。

2. 仏教文化セミナーについて
今年度あと二回開催することが確認された。

3. 二〇〇九年度専任研究員の募集について
提案どおり承認された。

応募締切日・十月二十四日
4. 二〇〇九年度出版助成（善本叢書・研究叢書）の募集について
提案どおり承認された。

応募締切日・十月二十四日
十月十五日（水） 午後十二時三十分～午後一時三十分
第五回運営会議開催

確認をとることとなった。
申請代表者に対し、採否結果とともに評価平均点とコメントを通知することとなった。

2. 二〇〇九年度「個人研究」の追加募集について
1の結果しだいで追加募集の有無を決めることが承認された。

十月二十七日（月） 午後六時～
第四回研究談話会（赤松研究室）
会場 大宮学舎本館一階応接室

講題 武将の神格化と新たな彫刻の誕生
講師 山下立氏（安土城考古博物館学芸員）

十一月七日（金） 午前三時～午後四時三十分
第七十二回仏教文化講演会
会場 大宮学舎清和館三階ホール

講題 我が師の恩
講師 奥田聖應氏（四天王寺副管長、四天王寺大学名誉教授・前学長）

十一月十二日（水） 午後十二時三十分～午後一時
第六回運営会議開催

1. 二〇〇九年度研究プロジェクト採
用審査結果および予算案について
提案どおり承認された。
2. 二〇〇九年度専任研究員について
該当なし。

仏教文化研究所規程

設立 昭和三十六年四月一日
昭和三十六年四月一日
昭和六十二年二月一日
平成六年六月九日
平成二年二月二五日
平成三年九月二七日
平成四年五月二六日
平成五年五月二五日
平成一九年七月五日

設立 昭和三十六年四月一日
昭和三十六年四月一日
昭和六十二年二月一日
平成六年六月九日
平成二年二月二五日
平成三年九月二七日
平成四年五月二六日
平成五年五月二五日
平成一九年七月五日

第一章 総則

第一条 この規程は、龍谷大学学則第七〇条に定める仏教文化研究所(以下「仏文研」という)について、その組織及び運営等必要な事項を定めることを目的とする。

第二条 仏文研は、龍谷大学大高字舎内に置く。

第三条 仏文研は、仏教文化及びその関連領域に関する総合的学術研究並びに国際的研究交流を行い、もつて学術研究の向上に寄与することを目的とする。

第四条 仏文研は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1) 仏教文化及びその関連領域に関する研究・調査

(2) 研究・調査に必要な図書・資料及び情報の収集・管理

(3) 紀要・叢書・所報等研究成果の刊行

(4) 研究会、公開講座、講演会等の開催

(5) 国内外の大学及び研究機関との研究交流

(6) その他前条の目的を遂行するために必要な事業

第二章 運営会議

第五条 仏文研に、重要な事項について審議・決定するため、仏教文化研究所運営会議(以下「運営会議」という)を置く。

二、次の各号に掲げる事項は、運営会議において決定する。

(1) 事業計画に関すること。

(2) 研究所予算に関すること。

(3) 指定研究プロジェクト研究の設置・廃止に関すること。

(4) 研究者及び委託研究員の受入れに関すること。

(5) その他仏文研における重要な事項

第六条 運営会議は、次の各号に掲げるもので構成する。

(1) 所長及び副所長 六名
文学部教授会が選任する者
短期大学部教授会が選任する者
学長が指名する者
若十名
(2) 専任研究員
研究部事務部長
二、前号第二号、第三号、第四号及び第五号による者の任期は、一年とする。ただし、再任を妨げない。

第七条 運営会議は、所長が必要と認める都度招集し、所長は会議の議長となる。

第八条 運営会議は、構成員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数の同意により決定する。

第三章 組織

第九条 仏文研に研究調査部及び事業部を設ける。

二、研究調査部は、第四条に規定する事業のうち、研究及び調査並びに各指定研究及び各プロジェクト研究の推進・調整に関する事業を分担する。

三、事業部は、第四条に規定する事業のうち、資料の収集・整理及び研究成果の公刊並びに研究交流等に関する事業を分担する。

第一〇条 仏文研に、特定の課題を研究する指定研究を置く。

第一条 仏文研に、常設研究プロジェクト・特別指定研究プロジェクト及び時限研究プロジェクトを置く。

二、常設研究プロジェクトは、次のとおりとする。

(1) 真宗学研究プロジェクト

(2) 仏教史学研究プロジェクト

(3) 特別指定研究プロジェクトは、次のとおりとする。

(1) 西域文化研究会

(2) 仏典訳語研究会

(3) 大蔵経学術用語研究会

二、時限研究プロジェクトは、必要の都度設置する。

二、専任研究員の任用については、別に定める。

二、兼任研究員は、所長が候補者を推薦し、学長が委嘱する。ただし、その候補者が専任教育職員である場合は、その候補者の所属する教育職員の承認を得るものとする。

三、兼任研究員の任期は、一年間又は二年間とする。

第四章 職員組織

第一三条 仏文研に、所長及び副所長各一名を置く。

二、所長は、仏文研の業務を統括し、仏文研を代表する。

三、副所長は、所長を補佐し、所長事故ある時はその職務を代理する。

四、所長及び副所長は、運営会議の推薦する者に対して、学長が任命する。

五、所長及び副所長の任期は、二年とする。ただし再任を妨げない。

二、主任は、各部の業務を調整処理する。以下、同じ。主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

二、主任は、本学(短期大学部を含む)以下、同じの専任教職員の内から、運営会議において選任する。

第六章 補則

第二〇条 客員研究員は、学外の研究者でその身分のまゝ一定期間仏文研に所属して、研究・調査活動に従事する者という。

二、客員研究員は、所長が候補者を推薦し、運営会議の承認を経て、学長が委嘱する。

第二一条 嘱託研究員は、前三条に規定する以外のもので仏文研の活動に参加する者という。

二、嘱託研究員の任用は、前条第二項の規程を準用する。

第二二条 仏文研は、受託研究員を受入れることができる。

二、受託研究員の受入れについては、別に定める。

第二三条 仏文研に、仏文研の事務を処理するために仏文研事務室を置く。

第二四条 この規程の改正又は廃止は、運営会議の決議により大学評議会において決定する。

付則 この規程は、昭和六三年二月一日から施行する。

二、この規程の施行に伴い、従前の仏教文化研究所規程(昭和六三年四月一日施行)は、廃止する。

三、この規程施行当初の所長は、第二二条の規定にかかわらず従前の規定による所長があたるものとし、運営会議は、第六九条の規定にかかわらず従前の規定による協議委員を以て構成するものとする。

付則(平成四年一月一六日題名、第一条改正) この規程は、平成四年一月一六日から施行する。

付則(平成六年六月九日第六次改正) この規程は、平成六年六月九日から施行する。

付則(平成二年一月二五日第一一条改正) この規程は、平成二年四月一日から施行する。

付則(抄) (平成三年九月二七日第六次改正) この規程は、平成三年四月一日から施行する。

二、この規程は、平成二年四月一日から施行する。

付則(平成四年五月一六日第六次改正) この規程は、平成四年四月一日から施行する。

付則(平成五年五月一五日第一一条改正) この規程は、平成五年四月一日から施行する。

二、この規程の施行に伴い、現に、仏教文化研究所事務室事務長にある者は、この規程による課長とみなす。

付則(平成一九年七月五日第二二条新設、第一一条以下繰下、第一六条改正) この規程は、平成一九年七月五日から施行する。

- 298.2/M I N/H-76 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /76
- 298.2/M I N/H-77 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /77
- 298.2/M I N/H-78 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /78
- 298.2/M I N/H-79 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /79
- 298.2/M I N/H-80 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /80
- 298.2/M I N/H-81 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /81
- 298.2/M I N/H-82 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /82
- 298.2/M I N/H-83 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /83
- 298.2/M I N/H-84 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /篇名索引
- 298.2/M I N/H-85 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /作者索引
- 298.2/M I N/H-86 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/ [黃夏年主編] /目錄
- 574/N I H/15 中国地方の民俗芸能/1：鳥取県の民俗芸能：鳥取県民俗芸能緊急調査報告書/鳥取県教育委員会編集
鳥根の民俗芸能/鳥根県教育委員会編集
(日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄，大島暁雄，吉田純子編；15-16)
- 574/N I H/16 中国地方の民俗芸能/2：岡山県の民俗芸能：岡山県民俗芸能緊急調査報告書/岡山県教育委員会編集
広島県の民俗芸能/広島県教育委員会編集
(日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄，大島暁雄，吉田純子編；15-16)
- 123.1/O K A/5 教行信証口述50講：親鸞のころをたずねて/岡亮二著/第5巻：真仏土の巻

RESEARCH INSTITUTE FOR BUDDHIST CULTURE
Ryukoku University (RIBC)
Kyoto, Japan December 2008.

（16頁より）

3. 二〇〇九年度出版助成（善本叢書・研究叢書）の予算案について
左記のとおり承認された。

(一) 研究叢書「スピリチュアル・アフリカー多様な宗教的実践の世界」（仮題）

落合雄彦 晃洋書房

「仏教とカウンスリングの意義（仮題）」友久久雄 法蔵館

(二) 善本叢書「大谷文書集成」四、及び「大谷文書集成目録」都築晶子 法蔵館

4. 二〇〇八年度客員研究員の科学研究費補助金研究者名簿への登録について

提案どおり承認された。

5. 二〇〇九年度沼田奨学金研究奨学金受給者の推薦審査及び外国人客員研究員の任用について

ドラマドゥル（鄭堆）氏（中国）、李学竹氏（中国）、ウインセント・エルトシンジャー氏（オーストリア）が推薦、任用された。

6. 科学技術共同研究センター「新春技術講演会」ポスターセッション出展について

出展することが決定した。

十一月二十六日（水）午前九時～午前十時三十分

第七十二回仏教文化講演会

会場 大官学舎清和館三階ホール

講題 仏教と医療の協力
講師 田畑正久氏（医療法人仁和会 佐藤第二病院院長）

平成二〇〇九年十二月二十六日発行

龍谷大学 仏教文化研究所

代表者 武田 龍精

六〇〇—八二六八

京都市下京区七条通大官東入

大工町一二五—一

電話〇七五(343) 三三一—(代)

内線5400

| | | | |
|------------------|--|------------------|---|
| 574/N I H/24 | 24) 九州地方の民俗芸能/6：鹿児島県の民俗芸能：民俗芸能緊急調査報告書：第五章～第六章/鹿児島県教育庁文化課編集 沖縄県の民俗芸能：沖縄県民俗芸能緊急調査報告書：沖縄県文化財調査報告書第一二集/沖縄県教育文化課編集 (日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄, 大島暁雄, 吉田純子編；19-24) | 298.2/M I N/H-1 | 究所聖彼得堡分所, 中國社會科學院民族研究所, 上海古籍出版社編/13主編：史金波, E. M. 克恰諾夫 |
| 207.6/S H I / | 中国仏教における懺法の成立/塩入良道著 | 298.2/M I N/H-2 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/1 |
| 000.1/539/1 | 中国旅順博物館所蔵新疆出土文物に関する総合的研究/上山大峻研究代表/1 (科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書；平成14年度-平成17年度) | 298.2/M I N/H-3 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/2 |
| 000.1/539/2 | 中国旅順博物館所蔵新疆出土文物に関する総合的研究/上山大峻研究代表/2 (科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書；平成14年度-平成18年度) | 298.2/M I N/H-4 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/3 |
| 299.9/G A N/2006 | 元興寺文化財研究所研究報告/元興寺文化財研究所編集/2006 | 298.2/M I N/H-5 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/4 |
| 709.2/T O K/27 | 聖徳太子絵伝下貼文書/東京国立博物館編/2 (法隆寺献納宝物特別調査概報/東京国立博物館編；26(平成17年度)-27(平成18年度)) | 298.2/M I N/H-6 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/5 |
| 204.2/S E N/51 | 浅草寺佛教文化講座/第51集(平成18年度) | 298.2/M I N/H-7 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/6 |
| 000.1/161/26 | 太平記/大取一馬責任編集 (龍谷大学善本叢書/龍谷大学佛教文化研究所編；26) | 298.2/M I N/H-8 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/7 |
| 081/R Y U/26 | 太平記/大取一馬責任編集 (龍谷大学善本叢書/龍谷大学佛教文化研究所編；26) | 298.2/M I N/H-9 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/8 |
| 208/U M I /C66 | Shan-tao : His life and thought/by Joji Atone (UMI dissertation services) | 298.2/M I N/H-10 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/9 |
| 208/U M I /C67 | The development of the concept of 'Prthagjana' culminating in Shan-tao's pure land thought : the pure land theory of salvation of the inferior / Nobuo Haneda (UMI dissertation services) | 298.2/M I N/H-11 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/10 |
| 023/1161/6-13 | 俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所蔵黒水城文獻/俄羅斯科學院東方研 | 298.2/M I N/H-12 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/11 |
| | | 298.2/M I N/H-13 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/12 |
| | | 298.2/M I N/H-14 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/13 |
| | | 298.2/M I N/H-15 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/14 |
| | | 298.2/M I N/H-16 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/15 |
| | | 298.2/M I N/H-17 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/16 |
| | | 298.2/M I N/H-18 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/17 |
| | | 298.2/M I N/H-19 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/18 |
| | | 298.2/M I N/H-20 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/19 |
| | | 298.2/M I N/H-21 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/20 |
| | | 298.2/M I N/H-22 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/21 |
| | | 298.2/M I N/H-23 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/22 |
| | | 298.2/M I N/H-24 | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/23 |
| | | | 民國佛教期刊文獻集成補編：原刊影印/[黃夏年主編]/24 |

- 081/K O N /92 生成文法と文理解の相互関係/福田稔, 中谷健太郎, 有村兼彬執筆 (甲南大学総合研究所叢書/甲南大学総合研究所編; 92)
- 081/R Y U /19 日本古典随筆の研究と資料/糸井通浩編 (竜谷大学仏教文化研究叢書; 19)
- 081/R Y U /18 Kapphinabhyudaya or King Kapphina's Triumph: a ninth century Kashmiri buddhist poem/ Michael Hahn; edited by Yusho Wakahara (龍谷大学仏教文化研究叢書; 18)
- 081/K O N /90 少年保護政策と日本、韓国、欧米、オセアニアの比較 / 園田寿 [ほか] 執筆 (甲南大学総合研究所叢書/甲南大学総合研究所編; 90)
- 081/K O N /93 九鬼哲学の研究と九鬼文庫のアーカイブ化/谷口文章, 石垣哲二, 渡辺りわ執筆 (甲南大学総合研究所叢書/甲南大学総合研究所編; 93)
- 574/N I H /19 九州地方の民俗芸能/1: 福岡県の民俗芸能: 福岡県民俗芸能緊急調査報告書/福岡県教育委員会 [編] 佐賀県の民俗芸能: 佐賀県民俗芸能緊急調査報告書: 佐賀県文化財調査報告書第一四二集: 一九九九年三月/佐賀県教育委員会編集 (日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄, 大島暁雄, 吉田純子編; 19-24)
- 410.074/G A N / 平城京右京北辺/元興寺文化財研究所編集
- 299.9/G A N /2 大和文化財保存会援助事業による當麻寺の版木/元興寺文化財研究所/西南院
- 023/1161/6-12 俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所藏黑水城文獻/俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所, 中國社會科學院民族研究所, 上海古籍出版社編/12主編: 史金波, 魏同賢, E.И.克恰諾夫
- 286/N I N /4 死と愛: いのちへの深い理解を求めて/鍋島直樹編 (人間・科学・宗教ORC研究叢書; 4)
- 208/S T M /21 Mapping the path: vajrapadas in Mahayana literature/Ulrich Pagel (Studia philologica Buddhica; . Monograph series; 21)
- 208/S T M /22 Haribhatta in Nepal: ten legends
- 208/S T M /23 from his Jatakamala and the anonymous Sakyasimhajataka/ edited by Michael Hahn (Studia philologica Buddhica; . Monograph series; 22)
- 017.3/I N T /9 The resolve to become a buddha: a study of the bodhicitta concept in Indo-Tibetan Buddhism/Dorji Wangchuk (Studia philologica Buddhica; . Monograph series; 23)
- 266.8/C H I /12 List of publications received/[International College for Advanced Buddhist Studies Library]/no. 9 報恩院流金剛界念誦次第の手引き: 動潮撰『金剛界念誦次第伝授手鑑』訳注 (智山伝法院選書; 第12号)
- 574/N I H /20 九州地方の民俗芸能/2: 長崎県の民俗芸能: 長崎県民俗芸能緊急調査報告書: 長崎県文化財報告書第120集/長崎県教育委員会編 くまもとの民俗芸能: 熊本県民俗芸能緊急調査報告書/熊本県教育委員会編 (日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄, 大島暁雄, 吉田純子編; 19-24)
- 574/N I H /21 九州地方の民俗芸能/3: 大分県の民俗芸能: 大分県民俗芸能緊急調査報告書: 大分県文化財調査報告書第八十六輯/大分県教育委員会 [編] 宮崎県の民俗芸能: 宮崎県民俗芸能緊急調査報告書/宮崎県教育委員会編集 (日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄, 大島暁雄, 吉田純子編; 19-24)
- 574/N I H /22 九州地方の民俗芸能/4: 鹿児島県の民俗芸能: 民俗芸能緊急調査報告書: 第一章~第四章/鹿児島県教育委員会編集 (日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄, 大島暁雄, 吉田純子編; 19-24)
- 574/N I H /23 九州地方の民俗芸能/5: 鹿児島県の民俗芸能: 民俗芸能緊急調査報告書: 第四章(続) / 鹿児島県教育委員会編集 (日本の民俗芸能調査報告書集成/三隅治雄, 大島暁雄, 吉田純子編; 19-

- 208/UM I /C54 Mistaking the boat for ththe shore? : a critical analysis of socially engaged Buddhism in the United States/by James E. Deitrick (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C56 Interpreting Mahayana syncretism : a comparative study of Santaraksita's The ornament for the middle way in Indian and Tibetan contexts/by James A. Blumenthal (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C57 Haunting the Buddha : theinfluence of Indian spirit religions on the formation of Buddhism/by Robert Daniel DeCaroli (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C58 The Hongzhou School of Chan Buddhism and the Tang literati / by Jia Jinhua (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C59 Contested nation / Buddhist innovation : politics, piety, and personhood in Theravada Buddhism in Nepal/Lauren G. Leve (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C60 Embodying the sacred : gender and monastic revitalization in China's Tibet/Charles Elizabeth Makley (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C61 "Attaining enlightenment with this body" : primacy of practice in Shingon Buddhism at Mount Koya, Japan/Buichiro Watanabe (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C62 Die Entstehung der Lehre von den Funf Positionen : Tung-shans Funf Positionen des Einseitigen und des Rechten und Ts'ao-shans Hymnen zu den einzelnen Positionen im Vergleich/von Dieter Plempe aus Helsa (UMI dissertation services)
- 081/K O N /89 男女共同参画社会の実現とその条件 : 働き方の考察を中心に / [中里英樹ほか著] (甲南大学総合研究所叢書/甲南大学総合研究所編 ; 89)
- 081/K O N /91 知的情報ネットワークと知的意思決定支援システムに関する研究 (甲南大学総合研究所叢書/甲南大学総合研究所編 ; 91)
- 702.22/ S O F / 中國美術の圖像學/曾布川寛編 (京都大學人文科學研究所研究報告)
- 208/UM I /C47 Burning for the Buddha : self-immolation in Chinese Buddhism/ by James Alexander Benn (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C50 The storehouse consciousness (Alayavijnana) of wei-shi (Yogacara) buddhism : the buddhist phenomenology of the un-conscious / by Tao Jiang (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C51 Transmitting the lamp of learning in classical Chan Buddhism : Juefan Huihong (1071-1128) and literary chan / by George Albert Keyworth, III (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C52 The development of Prajna in Buddhism from early Buddhism to the Prajnaparamita system : with special reference to the Sarvastivada tradition/by Fa Qing (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C53 The sinification of Buddhism as found in an early Chinese indigenous Sutra/Harumi Hirano Ziegler (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C55 Constructing American Buddhisms : discourses of race and religion in territorial Hawai'i/by Lori Anne Pierce (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C63 Lotze's conception of the soul compared with that of Buddhism/by Kumato Morita (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C64 To the other shore : reading Buddhism in the works of marguerite yourcenar/Joyce M. Janca-Aji (UMI dissertation services)
- 208/UM I /C65 Emotion in Buddhism : a case study of Avaghoa's Saundarananda/ Lynken Ghose (UMI dissertation services)
- 081/K O N /84 ミッション・ネットワークと大英帝国 / 大江満 [ほか] 執筆 (甲南大学総合研究所叢書/甲南大学総合研究所編 ; 84)

- 3 “Japanese expedition to Chinese Turkestan and Mongolia,” *The Geographical Journal*, Vol. 35, No. 4, April 1910, pp. 448-9.
- 4 MR CHINA S/S.191.
- 5 Obviously, 1913 is the date when the photographs were sent to the RGS and not when they were taken. At least one of these (076704) was published in Tachibana’s 1912 book (*Chūa tanken* 中垂探検, Tokyo: Hakubunkan, 1912).
- 6 Oda Yoshihisa 小田義久, “Tōdai kokushin no ichi kōsa” 唐代告身の一考察, *Tōyō shien*, No. 56 (2000), p.3.
- 7 M. Aurel Stein, *Serindia*, Oxford: Oxford University Press, 1921, vol. 1, p. 376.
- 8 This corroborates Professor Katayama’s conclusions regarding the provenance of the Li Bo manuscript. See: Katayama Akio 片山章雄, “Ri Haku monjo no shutsudochi” 李柏文書の出土地, in *Chūgoku kodai no hō to shakai* 中国古代の法と社会, Tokyo: Kyukoshoin, 1988.
- 9 The only place I have seen the Japanese name of this villa was the dissertation of Ronald Anderson. (Ronald S. Anderson, *Nishi Honganji and Japanese Buddhist Nationalism, 1862-1945*, Ph.D. dissertation, University of California, Berkeley, 1956, p.201.)
- 10 “Hōyūki” 鵬遊記, *Ōtani Kōzui zenshū* 大谷光瑞全集, Tokyo, Osaka: Daijoshu, 1935, vol. 9, pp. 414-6. The Consul and his son referred here must have been Alfred and Maurice Galland who, beside their diplomatic career, also owned a bank, a travel bureau, and a real estate agency.
- 11 Japan Center for Asian Historical Records, Ref. code B04121175500.
- 12 Kamimura Tatsumi 上村辰巳 was Ōtani’s personal secretary from the mid-1920s. As part of his assignment, he had managed a farm in Turkey and also travelled widely throughout Europe and Asia.

◇研究所収書目録◇

〈平成十九年度登録図書一覧〉

- | | | | |
|-------------------|---|-----------------|--|
| 422.035/T O K /12 | 唐研究／榮新江主編／第12卷 | | (Studia philologica Buddhica ; Monograph series ; 4a-4b) |
| 422.004/T O N /9 | 敦煌吐魯番研究／香港中華文化促進中心等合／第9卷 | 208/S T M /20-1 | The chapter on the mundane path (laukikamarga) in the Sravakabhumi : a trilingual edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), annotated translation, and introductory study /Florin Deleanu/v. 1 |
| 574/N I H /13 | 近畿地方の民俗芸能/2 京都府の民俗芸能/三隅治雄,大島暁雄,吉田純子編 (日本の民俗芸能調査報告書集成 /12-14) | | (Studia philologica Buddhica ; Monograph series ; 20a-20b) |
| 329.01/W A D / | インド哲学における伝統と創造の相克：テキストとコンテキスト＝ | 208/S T M /20-2 | The chapter on the mundane path (laukikamarga) in the Sravakabhumi : a trilingual edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), annotated translation, and introductory study /Florin Deleanu/v. 2 |
| 208/S T M /4-1 | Conflict between tradition and creativity in Indian philosophy : text and context/和田壽弘編 (21st Century COE Program International Conference series ; no.7) | | (Studia philologica Buddhica ; Monograph series ; 20a-20b) |
| 208/S T M /4-1 | Alayavijnana : on the origin and the early development of a central concept of Yogacara philosophy/ Lambert Schmithausen pt. 1. Text (Studia philologica Buddhica ; Monograph series ; 4a-4b) | 208/U M I /C48 | Living temple Buddhism in contemporary Japan : the Tendai sect today/Stephen Grover Covell (UMI dissertation services) |
| 208/S T M /4-2 | Alayavijnana : on the origin and the early development of a central concept of Yogacara philosophy/ Lambert Schmithausen pt. 2. Notes, bibliography and indexes | 208/U M I /C49 | The role of Genshin and rreligious associations in the Mid-Heian spread of Pure Land Buddhism/by Sarah Johanna Horton (UMI dissertation services) |